

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 5 月 27 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3891300166
事業所名	グループホームいしかわ
(ユニット名)	もみじ
記入者(管理者)	
氏名	管理者 菅原 修司
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 15 日

<p>【事業所理念】</p> <p>ゆっくり・たのしく・いっしょに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な地域への参加が継続できる事で、地域の皆様への施設知名度や理解度が深まり利用者の楽しみ拡大や現在よりも、地域とのつながりを深める事で、協力体制の輪を広めたい。</li> <li>地域住民、近隣施設との協力、支援体制の構築に努める。</li> </ul> <p>(結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染対策により、屋外活動等自粛となり、今年度に関しては、目標達成は出来ていない状況多く、継続取り組みが必要である。</li> </ul>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所の属する「医療法人健康会」は、市内で医療・介護・福祉と幅広い事業を展開している。山に囲まれた自然豊かな場所にある事業所の建物は2階建てで、1階には併設の保育園があり、日々事業所内には園児の声が聞こえるほか、利用者との交流も頻繁に行い、利用者は楽しみにしている。また、建物の2階にある事業所は広くてゆったりとしており、大きなリビングの窓からは、四季折々の風景を楽しむことができる。事業所では共用型デイサービスも実施しており、各ユニットに3名の利用者がいるほか、在宅生活が困難になった共用型デイサービスの利用者が、通い慣れた事業所にスムーズに入居に至った事例もある。系列法人の病院も含め、医療連携体制が充実していることもあり、緊急時にも利用者や家族、職員等には安心感がある。職員からは、事業所の理念である「ゆっくり・たのしく・いっしょに」を常に心がけて支援しており、明るい雰囲気を感じられる。さらに、法人・事業所として、事業所内の保育園の活用やメモリアル休暇など、各種福利厚生なども充実していることもあり、職員が働きやすい職場環境づくりにも努めている。</p>
---------------------------------------	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>								
<b>(1)ケアマネジメント</b>								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>入居時に、職員は利用者や家族から思いや暮らし方の希望等を聞き、センター方式のアセスメントシートに記録して把握に努めている。また、日々の関わりの中で利用者から得た情報は、更新時に追記している。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>入居前には、本人・家族・ケアマネ等から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の情報収集に努めている。</p> <p>日常生活の状況観察の中から、有する力の把握に努め職員間で情報交換している。</p> <p>その時その場面で本人の行動や表情を職員間で情報交換して把握に努めている。</p> <p>日々の処遇記録等で本人の状態を把握し、何が不安なのか身体面・精神面・環境面など要因を探りながら、得た情報を職員間で共有して把握に努めている。</p> <p>日々処遇記録で24時間の生活を記録して、変化があれば職員間で共有して把握している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>入居時に、職員は利用者や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過などを聞いている。また、職員は入居前に担当していた介護支援専門員からも情報を聞いている。把握した情報はセンター方式のシートに記録を残しているほか、日々の関わりの中で得た新たな情報も職員間で共有し、更新時に追記している。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>関りから得られた情報やご家族からの情報を基に、職員間で検討する機会を持っている。</p> <p>日々の暮らしの支援を大切にしており、気づきや情報はフロア会や申し送り等で話し合い検討している。</p> <p>フロア会ではモニタリングを行って、今後の支援や課題を明らかにし支援に生かす事ができる様に取組んでいる。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>月1回職員会議とフロア会議を開催している。フロア会議等ではカンファレンスも実施し、日々の関わりの中で得た利用者の情報や家族からの情報をもとにして職員間で話し合い、利用者の視点に立ったサービスを検討している。</p>

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いは日頃の生活で発せられる言葉や暮らし方で把握し、介護計画に反映されるように努めている。	/	/	/	事前に、職員は利用者や家族から意向を聞き取るほか、主治医や看護師からも助言をもらっている。把握した情報を基にしてフロア会議等を活用して職員間で話し合い、意見を反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	ご家族には、意向確認や医師等関係者の指示や助言をもらい、職員間でカンファレンスを実施して介護計画を作成しケアに努めている。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	今後の暮らしに関して、家族の意向や医療職の意見も聞いて支援に努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為活発には実施が出来ていないが、本人や家族と話し合い、地域とのつながり(美容室利用)を盛り込んでいる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画は、各利用者ごとにファイルに閉じて職員誰もが確認できる状況にある。	/	/	◎	利用者の介護計画の内容は、カンファレンス時に職員間で共有しているほか、個別ファイルにしていつでも職員が確認できるようにしている。A4サイズの個別の介護経過表には介護計画が転記されており、介護計画に沿ったケアの記録ができるようになっていることもあり、日々の支援につながっている。利用者の日々の暮らしの様子や支援した内容は、個別の処遇記録のシートに記録されている。また、利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫などは個別に申し送りノートにも記録を残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	フロア会議では状況確認しながら、今後の支援につなげるモニタリングを行っている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしの様子は、会話・表情・行動等を個別に記録している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	利用者の些細な事でも、気づきがある時は職員間で共有できる様にフロア会で意見を出し合ったり、申し送りノートを活用し取組んでいる。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	新規入居の場合は、1か月後、3か月後に見直しを実施。継続での入居の場合は、3か月で見直しを実施。	/	/	◎	新規利用者は、1か月後と3か月後に介護計画の見直しをしている。継続の利用者の計画は、3か月に1回見直しをしている。利用者の新たな要望や変化が見られない場合にも、職員は月1回利用者の現状を確認し、モニタリング記録表に記録を残している。また、利用者の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合には、その都度職員間で検討し、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月入居者の状況を話し合い、モニタリング記録をして、現状確認をしている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態変化(ADLの低下・入退院等)が生じた場合は、随時計画を見直している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎朝カンファレンスを実施し情報共有し、検討内容は申し送りノートで休みの職員に伝達できる様にしていく。月1回の職員会議とフロア会議を開催し意見交換できるように取組んでいる。	/	/	◎	チームとしてケアを行う上での課題解決をするため、朝の申し送り時のほか、月1回開催する職員会議やフロア会議を活用して職員間で話し合いをしている。緊急案件がある場合には、その都度出勤している職員で話し合いをしている。また、参加できなかった職員には、申し送りノートやフロア会議議事録を確認してもらうなど、情報の共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	フロア会議では、担当者からの意見を会議までにまとめ発表できる様に準備し、他の職員は発表を聞き意見交換できる場を設けて自分の意見を述べてもらう方法を実施している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	開催日時は決まった曜日設定し、職員もあらかじめ予定が立てて参加しやすい様に工夫している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	職員会議議事録・フロア会議議事録を作成している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	日々の申し送り事項は申し送りノートを作成し、受診では受診記録を作成し、確認した職員がサインする仕組みがあり、共有できている。	/	/	◎	日々の申し送り事項は申し送りノートに記録し、職員は出勤後にノートを確認して押印する仕組みができています。重要事項は職員間で分かりやすいように、赤ペンでの記載や赤線を引く工夫をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	各自の処遇記録やフロア日誌、申し送りノートに記録して全職員に伝わるように取組んでいる。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日々の会話や生活の中で思いを把握する事に努めている。	/	/	/	職員は、利用者によるその日着る服や靴下など、二者選択できるように準備して選んでもらっている。自己決定が難しい利用者には、家族に好みの服を持って来てもらい、職員が声をかけて支援している。日々職員は利用者と同様に目線を合わせて、ゆっくりと会話をするよう心がけた支援に取り組んでおり、利用者の活き活きした言動や表情が引き出せるように努めている。また、リビングの窓から見える四季折々の景色は素晴らしく、そこから利用者の思い出話に花が咲いて盛り上がることもある。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	洋服等は自分で選んでいたたり、難しい場合は二者選択できる様に努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	日頃から会話等を通して、信頼関係を深めて思いを表現する様に努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	基本的には、利用者の希望を組んで対応している。全て実施出来ているかとなると、全てではない時もある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者の視線に合わせて何気ない世間話などを楽しむ時間を持つ様にしている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	声かけをしながらスキンシップを図り仕草や表情をみて本人の思いを探る様努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	法人内・事業所内研修を実施し、利用者の人権や尊厳を守る事を大切にして関わる様に学習している。	◎	◎	○	法人の合同勉強会や事業所の勉強会で、職員は人権や尊厳などについて学び、日々利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい支援をしている。トイレ誘導時には、職員は利用者による小聲でさりげない声かけをしている。また、職員は利用者一人ひとりの居室は専用の場所で、プライバシーのあることを理解しており、居室への入室時にはノックや声かけなど事前に了解を得ることができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人前での排泄の声かけは、小さな声で支援したり、目立つ様な声かけをしない様にしている。一人でトイレの場所がわかる様に、目印もつけている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄に関しても、小さな声で声かけをしたり、入浴時は、同性介助希望利用者には同性介助で支援する等対応を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者の個室に出入りする場合は、一言声かけやノックをして居室出入りする様に努めている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	法人や事業所で勉強会を実施し法令遵守して支援できる様に取組んでいる。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者が、洗濯物を干したり積極的に「ここ持ってきな」との言葉をかけて下さったり、助けて頂いた時には感謝の言葉をお伝えする対応を心がけている。	/	/	/	日頃から職員は利用者同士の関係性を把握し、座席の位置などの配慮ができています。利用者同士がトラブルになりそうな場合には、職員が間に入って双方の話を聞き、気分転換ができるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	下膳をされたり、帰宅願望がある利用者の思いを隣で聞いてやさしい言葉を掛けて下さったり、利用者同士で支えあう場面がある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	仲の良い利用者同士が過ごせる座席の配慮をしてトラブルにならない様に支援しているが、トラブルが起こりそうは雰囲気の場合、職員が間に入りそれぞれの利用者の思いを傾聴し、気分転換が図られる様に努めている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者による不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士の関係性には留意し、トラブルにならない様に座席など配慮している。双方の思いを傾聴して楽しい気持ちに転換できる様に支援している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居前には情報を収集して把握に努めているが、入居後に情報を得ることも多い。得た情報は職員間で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前には情報を収集して把握に努めているが、入居後に知り得た情報もあり、得た情報は職員間で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、ほんの少しの期間を利用して馴染みの美容院へ出かけられた。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、リモート面会を活用しご家族や親せきの方との交流を図っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、ほんの少しの期間を利用して外出し利用者の希望を取り入れられた。	○	×	△	現在はコロナ禍のため、利用者の外出制限を設けている。事業所では、利用者が少しでも外出できるように、地域の新型コロナウイルス感染状況を確認しながらドライブしたり、少人数の利用者でファミリーレストランでケーキを食べたり、喫茶店等にコーヒーを飲みに行くなどの工夫もしている。また、重度の利用者もドライブしたり、玄関前の花の観賞をしたりするなど、気分転換ができ、気持ち良く過ごせるように取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、ほんの少しの期間を利用して外出し気分よく過ごして頂けたと感じる。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていない。希望があれば、ご家族等相談しできる範囲内で支援したい。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者の状態変化が見られてたり気付いた場合は、職員間で話し合い、解決に向けて努めている。	/	/	/	日常生活の全般において、利用者自らが「できること、できそうなこと」に対して、職員は手や口を極力出さずに見守ったり、一緒にしたりしている。また、入浴時には、利用者が洗身できることは見守り、できないところを介助している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ラジオ体操や地域(しこちゅう体操)の体操、口腔体操等を毎日実践している事で、自然と動きの中から身体機能維持につながっている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	洗濯干し、アイロンかけ、本人が自主的に行っている活動は、見守りをして一緒に行うようにしている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	事前調査や日常の会話や生活様子から、その方の得意な事、役割りや楽しみを把握するように努めている。	/	/	/	洗濯物干しやアイロンををかけ、おやつ作り、レクリエーションのリーダーなど、事業所では利用者一人ひとりの役割や出番がつけられるように取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	利用者一人ひとりが活躍できる場面(掃除・洗濯・体操・歌・レクリエーションでのリーダー等)をつくり、張り合いを持って生活出来る様に、出番を作る支援を心がけている。	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地域の催し物に参加して楽しみを感じて頂ける支援は整っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	地域的美容室利用を希望される方には、店主さんと連絡をとり希望に添える支援を試みたり、外出が難しい方は地域の理容師に来ていただいてカットをお願いしている。				職員は、利用者の食べこぼしをさりげなく拭いたり、拾ったりするなどのフォローをしている。重度で自己表現ができない利用者には、家族に利用者の好みの服を持ってきてもらっている。また、髪形は利用者の好みを把握し、行きつけの美容室に出かけて整えてもらっている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	地域的美容室利用を希望される方には、店主さんと連絡をとり希望に添える支援を試みたり、外出が難しい方は地域の理容師に来ていただいてカットをお願いしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご家族さんが持って来て下さったものの中からも、好みの色やデザインや季節を考慮した洋服を選んでアドバイスしたりしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	好みをよく知っている家族が、洋服を持ってきて下さる事もある。季節に合った素材を職員と一緒に選ぶ事もある。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	食べこぼしに関しては、さりげなく職員が介助している。また、衣類が傷んで古くなった物は家族と話し合っって持って帰っていただき、身だしなみが整うように支援している。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望利用者に対しては、行きつけの地域的美容室へ行くことができる様に本人・店主・家族と日程を調整し入居時に理容・美容の希望を確認して支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	ベッド上で過ごす事多い重度の方に対しても、日中は寝衣ではなく、洋服で過ごしていただいている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	嚥下状態に合わせて食事形態の見直しを行っている。				献立と食材は業者に外注している。事業所で炊飯と汁物を調理するほか、届いた食材は湯煎して、利用者の咀嚼や嚥下状態に合った食事形態にして、盛り付けて提供している。炊飯は事業所内で調理しているため、近隣の竹林に利用者と一緒に外注して、収穫した食材の皮をむいて笹ご飯を作るなど、季節を感じる献立なども取り入れている。事業所では、利用者と一緒に外注して、楽しみながらしている。青魚が食べられない利用者には、事前に業者に伝え、白身魚に代替えするなどの配慮をしている。食後の下膳やテーブル拭きなど利用者と一緒にしている。事業所では、利用者が使い慣れた茶碗や湯呑みを使用している。職員は、一人ひとりの好みや状態にあった食事形態などの確認や把握しながら見守りや食事介助をしていることもあり、利用者と同じ食卓を囲んで食事をすることはできていない。今後は、利用者と一緒に食事が摂れるよう、職員間で検討することを望みたい。また、重度な状態の利用者も食事前にはリビングで過ごしてもらい、調理の音や匂いから食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりにも努めている。月1回の職員会議やフロア会議の時に、旬の野菜を取り入れた献立や調理方法などについて職員間で検討している。さらに、令和3年4月からは、月2回利用者の状態に沿った食事形態などについて、栄養士からアドバイスを受けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	△	献立や食材は、外部業者に発注。調理は施設で実施。後片付けもできる利用者にはお手伝いしていただいている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	後片付け、台所清掃など一緒にしている。また、得意のおやつ作りをする時もある。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居前にはアレルギーを含め嗜好を確認している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	春や秋は近隣の竹林や栗林へ一緒に出かけ、筍掘りや栗拾いをし、季節を感じる献立を一緒に考えて下さる方も一緒にしている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	咀嚼・嚥下状態に合わせて食事形態を提供している。排便状態は把握しており、便秘の場合はオリゴ糖入り牛乳を飲んでいただく支援もしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自分専用の持ちやすい茶碗・湯呑み等を使用している。共有の皿も含め、温かみのある陶器を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	さりげなく一人ひとりの様子を見守って食事の支援(食べ方混乱・食べこぼし等)を個別にさりげなく行っている。食事介助の支援も行って、なかなか一緒に職員が食卓を囲む時間は摂れていない。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度の利用者も、調理の音やにおいを感じられる様な場所で休憩して頂いたり、食事介助中はコミュニケーションをとりながら支援している。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事摂取量や水分摂取量は、日別のチェック表に記入し全職員が把握出てる体制で実施している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量の少ない利用者、好きな飲み物で摂取できる様に対応を行っている。しかし工夫しても食事が低下している利用者に関しては、訪問診療で医師より助言をもらい栄養補助飲料を摂取する場合もある。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は、外注業者に依頼しているが、職員間で検討し近隣で採った旬の野菜を生かして提供できるように工夫している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	夜勤者が調理器具等の消毒を実施している。食材に関しては日々業者から食材が配達されている。配達後は冷蔵庫にすぐ保管して衛生管理に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食事前は口腔体操を、食後は口腔ケアを実施して誤嚥性肺炎予防に取り組んでいる。定期で口腔ケア指導を歯科衛生士から受けており、職員に介助方法の助言がある。				毎食前に、利用者はうがいと口腔体操をするほか、毎食後は歯磨きを実施している。職員は磨きの残しなど、利用者のできないところを介助している。また、月1回歯科衛生士の訪問があり、利用者一人ひとりの口腔内の健康状態を把握し、不具合が生じた場合には、歯科医の訪問診療につなげることができている。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	定期で歯科衛生士が訪問しており、一人ひとりの口腔内の健康状態を把握するように努めている。歯科衛生士の助言で、必要時は歯科医訪問診療を受ける事もある。			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	毎月1回歯科衛生士が訪問しており、口腔衛生管理体制を整えている。職員に対して口腔ケアの指導がある。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者の能力に応じてし、見守りや介助を行って義歯の手入れを支援している。・消毒等は職員が対応。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	食事前後には必ず口腔ケアができる様に支援している。口腔の衛生が保てているか、全利用者に対して歯科衛生士の訪問があり、支援方法の助言ももらっている。					◎
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔内の不具合は、まず歯科衛生士に確認してもらい、その後歯科医による訪問診療につなげるようにしている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	重度利用者に対しても、トイレでの排泄支援を大切にしている。立位困難であっても座位が保持できる利用者は、2人介助でトイレへ移乗して排泄できる様に支援している。				トイレで利用者が排泄できることを基本として、利用者一人ひとりのその時の状態に合った支援をしている。排泄状況は記録に残し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、職員は声かけやトイレ誘導をしている。日中、重度でも座位が保持できる利用者には、紙おむつからリハビリパンツに替わり、トイレで排泄できるようになった事例もある。また、必要に応じて、適切な排泄用品の使用を話し合い、利用者の尿量に応じてパッドも使い分けしている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排便に関し、日々記録をして把握している。また、便秘にならない様に医師や看護師から助言も仰ぐ事もある。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排便に関しては記録をし、常に間隔・量等の把握に努めて支援している。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	重度利用者に対しても、座位が保てる利用者はトイレでの排泄支援を大切にしている。	◎		◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄が間に合わない利用者に対しては、早めの声かけを行ったり、夜間はポータブルトイレを使用する場合もある。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄のパターン・兆候・間隔を把握し、トイレ誘導は早めに声かけ誘導を支援している。特に排便に関しては、ゆっくりと落ち着いて座る時間が持てる様に支援している。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	尿量や排泄パターンを検討し、どのような種類がよいか話し合って支援している。夜間は尿量やトイレ回数に合わせて支援している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	利用者の排泄パターンを把握して、日中・夜間を使い分けしている。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	牛乳・オリゴ糖・ヨーグルト・バナナ・体操等の支援をし、またトイレに座る習慣も大切にして、排便コントロールを支援している。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	予め予定は組んでいるが、その時の希望や状況に合わせていつでも変更ができる態勢をとっている。本人の希望で同性介助にしたり、入浴順番等は個々の希望を大切にしている。	◎		○	利用者は、週2回以上入浴することができる。事業所では、事前に利用者の入浴予定日を決めているが、その時の利用者希望や状況に応じて対応している。入浴を拒む利用者には声かけをして、入浴する順番や入浴日を柔軟に変更する場合もある。また、利用者の希望で同性介助にも対応したり、湯船に浸かる時間も調整して対応できるよう努めている。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	ひとりの個浴対応であり、介助者と会話を楽しみながらゆったり入浴できる様に支援している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	声かけをして、できない部分のみの介助をしている。必ずマンツーマンで職員が付き添い安全安心な入浴実施ができる様に支援している。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず、拒否がある時は時間や日を変えて支援するようにしている。	◎	無理強いはせず、拒否がある時は時間や日を変えて支援するようにしている。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックや入浴前の健康状態を観察して見極めている。入浴後は水分補給をして状態観察を継続している。					



項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	利用者の睡眠パターンをほぼ把握しているが、日によってパターンが違って来るともあり、完全な把握は難しい。				職員は一人ひとりの睡眠リズムを把握して、日中の活動量や過ごし方を見直し、利用者が安眠できるよう努めている。夜間に不眠の利用者がいても、事業所では見守りながら薬剤に安易に頼ることのない支援をしている。不眠が続く利用者には、医師や看護師のアドバイスを受け、職員間で話し合いながら対応している。また、事業所での支援により、薬の減量につながった利用者もいる。現在、4名の利用者が睡眠導入剤を内服している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	睡眠リズムを確認して、昼夜逆転にならない様に日中活動的に楽しく過ごせる様に支援している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	薬剤に関しては医師と相談しており、夜眠れない時があっても安易に薬に頼る事なく、まず睡眠リズムを確認して様子観察をしている。その後日中の活動量を見直したり、昼夜逆転になっていないか留意して、日中は楽しく過ごせる様に支援している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室は個別であり本人の希望や身体状況に合わせて、休憩時間を設けるように支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	家族から贈り物があった場合は、お礼の電話をかけたいと希望者にはご家族に電話する事ができる様に支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	意向に応じて支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	利用者から電話をかける希望者は、現在少ない状態。家族と電話される場合は、部屋を使用して静かに電話でき気兼ねなく話せる配慮は行っている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙やはがきは必ず利用者に手渡し御覧になられている。しかし返事を書くまでには難しい。文字が苦手な場合は電話でお礼の返信を送る事がある。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	利用者のご家族に電話をかける事については、ご家族も理解を得ている。また、現在のコロナ状況で電話での互いの声を聞いたりして安心する一つとなっている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を使う事の意味が個人の尊厳につながると理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	買い物の時や地域的美容室へ行った時には所持金を使用するが、日常的ではない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	美容室へ出かける利用者に対し、店主と協力を得る働きかけをしお金を所持して支払いできる様に支援している。他の利用者には、職員が付き添って自分のお金が支払える様に見守りしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	所持方法や金額は、家族や本人と話し合って決めている。自己管理の難しい方については、施設が預り金として管理し、必要時に使わせて頂いている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	所持方法や金額は家族や本人と話し合って決めている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入居時に管理方法や報告方法の説明を行い、同意をいただいている。また毎月出納帳と領収書を家族に送付して確認していただいている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	面会時に本人の状況を報告し、家族の状況も報告して頂いている。馴染みの美容室に行ける様に、現在のコロナ状況も合わせて本人・家族、業者と話し合っている。できる範囲での対応は心がけている。幸い、ちょっとした期間を見計らい実施出来た。		◎	○	系列の医療機関を受診する場合には、職員が同行支援している。外出時に、利用者の希望と一緒に買い物をする事もある。現在のコロナ禍において、家族との外出などの要望には応えられない場合があるが、可能な限り外出などができるよう取り組んでいる。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関には自動販売機やベンチを設置しており、散歩途中の高齢者や四国遍路の方が休憩される。いつでも誰でも休憩できる様にしている。1階には附属保育園があり、にぎやかな声が施設まで聞こえてくる。	◎	○	◎	事業所のある建物は2階建てで、1階は保育園があり、2階が事業所となっている。1階の事業所専用の玄関前には自動販売機やベンチが設置され、お遍路さんの休憩場所にも活用されている。保育園の窓ガラスにはかわいい張り紙がしてあったり、玄関前に花のプランターが並べられたりしているなど、親しみやすい雰囲気となっている。		
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがあふれる。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	フロアや廊下には畳みベンチを置いて、ちょっとしたおしゃべりを座って楽しむ事ができる様にしている。中庭には家族が作ってくれた巣箱を設置し、毎年すずめの巣立ちを見守っている。また家族が寄贈してくれたグランドピアノもあり、一緒に歌を歌ったり交流行事の場となっている。	◎	◎	◎	共用空間は広く、テーブルやソファ、畳みベンチ、ピアノなどが設置されている。中庭には巣箱やたくさんの植物の鉢が置かれている。リビングの窓は広く、利用者や来訪者は季節折々の風景を楽しみながら、ゆったりと過ごせるような雰囲気づくりがされている。訪問調査日には、壁に利用者と一緒に作った折り紙の紫陽花やてるてる坊主が飾られているほか、広い窓から竹林やさつきが咲いている様子を見ることもでき、季節を感じることができた。事業所内の採光はブラインドで調整し、不快な臭いなどはなく、掃除は行き届いている。また、日々の生活の中で、利用者や来訪者は自然を目にしたり、鳥の鳴き声を聞いたりできるほか、1階にある保育園児のにぎやかな声を聞こえるなど、生活感を感じながら居心地よく過ごすことができている。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	利用者が陽の光が眩しい時にはブラインドにて調整している。1階の保育園の子供達の遊ぶ声、周囲の山々の鳥のさえずりが聞こえる環境で、生活出来る様に支援している。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	調理の匂いで今日のご飯は何かと話題にしたり、食欲が増す環境で生活出来る様に支援している。窓が大きいので、自然の光や近隣の山々の自然が目に入り、外出したいという意欲につながっている。						◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングにはソファがあり、好きな場所に座って気の合う仲間同士が交流でき、また廊下も広い畳みベンチを設置し、思い思いに自由に過ごせる様にしている。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	共用空間はL字型であり、トイレや浴室はリビングからは見えない場所に設置している。						
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族協力のもと、嫁入り道具の鏡台、使い慣れたタンス、家族の写真、手紙など、利用者にとってなじみのある物を居室に置いて、居心地よく生活出来る様に支援している。	◎		◎	居室には、利用者が使い慣れたものを持ち込むことができる。鏡台や筆筒を置き、家族の写真や好きな歌手の写真・グッズを飾り、利用者にとって居心地よく過ごせるような空間づくりの支援をしている。		
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	リビングの壁には手すりを設置し、付き添いは必要であっても歩行できる環境である。また、トイレ内も歩行しながらトイレ動作ができるように連続して手すりを設置している。また、車椅子を自走できるようにローカ幅は広くとっている。			◎	事業所では、利用者が生活しやすいようリビングの壁やトイレ内には手すりを設置しているほか、大きく「トイレ」と表示している。また、各居室の入口には縦型の表札を設置するなど、利用者が迷わず、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	トイレへの場所がわかりやすい様に表示している。また、自分の居室がわかりやすい様に表札を設置している。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞は身近に置き、読みたい人が読めるようにしている。また、洗濯干しが自由にできる様に、物干しハンガーを置いている。						
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	自由に家族や地域の方が出入りできる様に、日中は外玄関の鍵はかけていない。ユニット間は事務所・台所を通じて常に開放しており、自由にユニット間を行き来できる様にしている。	◎	×	△	事業所は民家から離れた山間部に位置することから、警察署から防犯対策の指導を受けて、1階の玄関は昼間は鍵をかけていないが、夜間は防犯のため施錠している。2階のユニットの内玄関には常時鍵をかけているが、入居時に家族に説明して承諾を得ている。また、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、外出したい利用者には玄関前に一緒に出るなどの対応をしている。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	入居前に防犯の意味合いでの夜間の施錠時間を説明して理解を得ている。しかし連絡をいただければいつでも面会は可能である事も説明して理解を得ている。ユニットの内玄関は、近隣の傾斜のある山間部でもあり、安全面を第一に考え施錠している。出たい様子や希望があれば、スタッフが付き添い出られる状況にはある。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	日中は外玄関の鍵はかかっていない。自由に家族・地域・業者の方が出入りできる状態。2ユニットの間にある事務所や台所は常に開放しており自由に生活出来るようにしている。しかしユニットごとの内玄関は、隣近所のない山間部でもあり、防犯の面から施錠している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居前事前面接の記録や入居後も身体状況の変化に対する留意事項は職員間で共有できるように、記録(受診記録等)をしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	訪問看護師と共有できる健康チェック表を記録している。また、排便や排尿状態の確認チェック表を記録し、気になる点は訪問看護に報告し受診の必要性の有無を助言を仰ぐ。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	母体が医療機関であり、また訪問看護師とは24時間連絡がつくようになっており、気軽に相談できる関係である。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時は、家族や本人の希望でこれまでの病院に継続して受診することができる様支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	受診した場合は家族に報告している。状態に応じて家族に付き添っていただき、医師からの状態説明と一緒に聞いていただいている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	入居前に受診について、家族と話し合っている。事業所が受診介助した場合は、受診結果を家族に連絡。また家族が受診付き添いをした場合は情報をいただき、お互いに受診に関しては情報交換できるようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、サマリーを医療機関に提出して情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中は面会に行き、病院関係者と情報交換をした家族の同意を得て、病院関係者とのカンファレンスに同席させていただき、病状の回復状態を把握できる様に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院時にはサマリーを病院に提出し、情報提供する様に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週3回は訪問看護師の定期訪問があり、身体的変化がある場合は、訪問看護師に伝えて助言をもらっている。早期受診を支援するケースもある。月2回は協力医療機関の医師の訪問診療があり。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	週3回は訪問看護師が来ている。24時間いつでも連絡が取れる体制が整っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃の健康管理や状態変化は早期の段階で訪問看護師に相談し、助言をもらい、必要に応じて受診・治療につなげている。早期対応・治療につなげるように努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	受診時は受診記録を記入して薬情報も確認し、用法や用量は確実に申し送りして薬に対する理解を深めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	ダブルチェックを行ない、指示どおりに服薬できる様に取組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	内服薬が変更した場合は、受診記録を確認して変更理由を共有しており、状態観察を継続している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	月2回の訪問診察時には医師に状態を報告し指示を仰いでいる。様子は個別のカルテに記入し、変化があれば医師、家族に連絡している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居の契約時に、家族に看取りケア・指針について説明している。看取り開始となった場合は、面会時を利用して家族との話し合いの場を持って、状態の変化を報告して意向や思いをその都度確認している。看取りに関して医療職との情報共有を十分行っている。	/	/	/	事業所には、「看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明をして、同意を得ている。利用者が重度化した場合には家族の意向を確認し、医師や訪問看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有して支援している。母体は医療法人ということもあり、事業所には月2回の訪問診療のほか、週3回の訪問看護があり、協力連携体制が整っている。また、事業所では開設から8名の看取り介護を経験しており、職員教育や職員間で話し合いをしながら取り組むことができている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	職員・訪問看護師間で話し合いを持っている。看護師の助言は日々記録し職員間で共有している。医師とも連携をとって、利用者の状態・家族の意向・支援内容を共有している。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	これまでの看取りのケースを反省し、職員の思いをアンケート調査して看取りに対する思いや不安などを把握している。訪問看護師も一緒に、職員の不安が解消できる様に一緒に話し合っており取り組んでいる。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	重度化した場合の事業所内で、できる支援について説明し、同意をいただいている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族には状態説明をしており、医師・訪問看護師等の医療職とも情報共有している。今後の変化に備えて、医師や訪問看護師からは具体的な指示や助言を仰いでいる。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	身体的状態や変化を説明し、医師や訪問看護師から直接説明を受ける事ができる様に日程の調整を支援する事もある。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染委員会が中心になって予防策や対応策の勉強会を実施している。また法人内でも感染委員会が中心になって開催される勉強会に参加している。	/	/	/	事業所には、「看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明をして、同意を得ている。利用者が重度化した場合には家族の意向を確認し、医師や訪問看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有して支援している。母体は医療法人ということもあり、事業所には月2回の訪問診療のほか、週3回の訪問看護があり、協力連携体制が整っている。また、事業所では開設から8名の看取り介護を経験しており、職員教育や職員間で話し合いをしながら取り組むことができている。
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	法人感染委員会が中心になって勉強会を実施し、また事業所でも各ユニットごとに訓練を実施している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	法人感染委員会が中心になって、地域の感染症発生状況の最新情報を入手し、情報共有できている。また母体が医療機関であり、ネット上で最新情報の共有ができる様になっている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	感染症の流行期には法人感染委員会が中心になって、対応等についての研修会を実施している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤後、退社前には手洗いやうがい、手指消毒をしている。利用者も食事前・帰所後の手洗いやうがいを徹底している。玄関には手指消毒剤を常備し、検温等来訪者にも協力を依頼している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族状況を把握した上で、外出支援・病院受診なども無理のない範囲で協力いただいている。家族と外出した場合は、様子をお聞きして情報共有している。	/	/	/	現在はコロナ禍のため、面会制限や外出制限を設けているが、以前は家族の来訪時にはリビングのピアノを弾いてもらったり、レクリエーションに参加してもらったり、地方祭に現地で行き合わせをするなど、一緒に楽しんでもらうことができていた。面会制限もあるため、現在は行事や活動への参加はできないが、家族の希望に応じて、オンライン面会を取り入れる工夫をしている。毎月、家族には利用者の近況報告を記入した行事予定表や行事写真を送付するほか、年4回事業所便りも送付している。また、事業所の運営上の事柄や出来事についても、毎月の行事予定表等を活用して一緒に報告するほか、内容によっては電話で直接職員が伝えることもある。また、家族の来訪時には、職員から声をかけ、気軽に希望を伝えたり相談したりできるような雰囲気づくりもしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	現在は、新型コロナウイルス対策に面会中止しているが、面会時は、居室でゆっくり過ごしたり、フロアで過ごしたり、利用者や家族が思いのままに交流できる様に支援していた。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事案内を毎月お知らせしている。現在は新型コロナウイルス対策で実施出来ないが、面会時は普段のレク活動と一緒にされる家族や地方祭では、現地で待ち合わせをして一緒に参加する家族もある。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	行事予定表に一筆状況報告を記入し家族に送付したり、また広報誌を送付している。	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	現在は新型コロナウイルス対策で実施出来ないが、面会時には、家族とコミュニケーションをもつ様に心がけて、直接は言いにくい事がある事も理解しつつ、家族の思いを理解する様に努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族双方が、より良い関係が築けられる様に努めている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営上の事柄や行事予定等は毎月の手紙で知らせたり、内容によっては直接電話連絡をして報告している。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時や体調変化時には、転倒の可能性や状態急変などの起こりうる説明をし、面会時には近況報告をして、今の状況を理解していただける様に努めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	家族の面会時はコミュニケーションをとり、状況説明をしながら、気軽に意見を言っていたに心がけている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には丁寧な説明を心がけている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	入居時には終末期の意向確認をさせていただき、看取りの説明もやっている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に料金の内訳を重要事項で説明させていただき、同意を得ている。変更事項がある場合は文書でお知らせし、また個別に説明させて頂いて同意を得る様にしている。	/	/	/	



項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地域の民生児童委員さんと役員さんに地域イベントに参加する時には、事業所の理解を図って地域の輪に入れて頂いている。	/	○	/	現在はコロナ禍のため、面会制限や外出制限が設けられているため、地域住民との交流は減っている。以前は、利用者と一緒に地方祭や地域の運動会などに参加して地域住民との交流があったが、ほとんどの行事は中止となっている。系列の福祉施設や1階にある保育園児との交流は可能な限り継続している。また、事業所専用の玄関前には自動販売機やベンチが設置され、お遍路さんの休憩場所にも活用されている。さらに、法人・事業所として、認知症の方を地域で支える「みかん会」を結成して活動にも協力できている。管理者は、「コロナ終息後は、地域の活動や行事への参加を再開し、地域住民との交流を深めたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、山間部であり民家は無いが、1階の保育園の子供や職員、近隣のグループ福祉施設との交流は継続している。運営推進委員からは地域の活動(祭り等)の情報をいただいで、参加させて頂いている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地域の祭り・運動会、に参加させて頂く事で、事業所の存在は知って頂けており、理解して下さっている方は増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが行事以外でも1階保育園児が立ち寄って遊びに来てくれる事あり。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、1階の保育園の子供や先生とは気軽に声をかけ合っている。また地域に出た時は、運営推進委員の方と気軽に世間話をしており、山間部ではあるが日常的なおつきあいをしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地域の美容室の方がお迎えで美容室へ出かけられる方もいる。誕生会ではご家族がボランティアとしてピアノを弾いて盛り上げてくれている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、美容室への外出をしたり、飲食店に出かけたり、地域との結び付きを切り離さない暮らしの継続に努めている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地区神社の祭り・公民館行事・夏祭り行事等に、誘っていただいている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為書面報告対応を行なっているが、以前は家族・地域の人等誰かの参加がある。全て全員が必ず出席とは難しい。	/	○	○	運営推進会議は、ユニット内のリビングで利用者や家族、市担当者、民生委員、婦人会会長、商店の方などの参加を得て開催している。現在はコロナ禍のため、資料を送付して意見を聞くなどの書面開催となっている。会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況などを報告し、参加者と意見交換などを行っている。会議で出された意見を反映した取組みを行っているが、取組み状況やその後の報告までには至っていない。今後は、会議へ多くの家族の参加を呼びかけたり、会議メンバーからの意見や提案の取組み状況を報告したりするなど、家族や地域住民から事業所へより一層の理解を図り、信頼関係や協力支援体制が深まることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為書面報告対応を行なっている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為書面報告対応を行なっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為書面報告対応を行なっている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	来訪者が閲覧できる様に玄関先に設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員会で理念について共通意識を確認している。また、玄関や各ユニットごとに掲示している。				法人・事業所として、職員のストレスチェックを実施しているほか、年2回管理者は職員との個別面接を実施し、意見や要望を聞いている。代表者は年数回、事業所の職員会議にも参加し、職員へ激励の言葉などを贈っている。法人内の合同勉強会や事業所の勉強会で職員育成に取り組むほか、感染症対策や介護計画などの外部研修にも参加することができるよう支援している。また、法人・事業所として、事業所内の保育園の活用やメモリアル休暇など、各種福利厚生なども充実し、職員が働きやすい職場環境づくりにも努めている。	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関や各ユニットごとに掲示しており、入居時にも家族にも伝えていく。	○	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修案内が届けば、職員に参加希望を確認し、希望者はできるだけ参加できる様になっている。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設内の勉強会年間計画もスキルアップできる様に取り組んでいる。資格取得に向け、法人で合同勉強会を開催しており、スキルアップできる体制作りをしている。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	人事考課制度があり、各職員の自己評価や向上心を確認して年2回管理者と面接を行っている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	現在はコロナ状況で中止しているが、市内グループホーム交流会や相互研修を企画している。また県地域密着型サービス協会に加入している。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	法人として、職員のストレスチェックを実施している。	◎	◎	○		
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	法人での身体拘束適正化講習を開催し、全ての職員が参加しまた、職員会時にも施設でも勉強会を開催している。					職員は、法人が実施する身体拘束適正化講習に参加するほか、事業所の勉強会等で学ぶ機会があり、職員は理解して、日々のケアの中で虐待や不適切なケアが見逃されないよう注意しながら支援している。不適切なケアを発見した場合には、職員同士で注意し合うほか、管理者へ報告して対応している。また、重要な案件や内容については、職員会議の中でも報告し、全職員に周知して再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日頃のケアで気になる点は、その日に話し合い、改善できる様に努めている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	気になる言葉使いやケアはその時点で、職員同士が互いに話し合い注意し合い、管理者に報告する様になっている。虐待に関して、管理者に報告し緊急時にはその場で検討対応を行い、必要時には職員会で全職員による再検討を行う。					
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員に対して、言葉がけを注意し心がけている。会話時の様子や勤務の様子から、ストレスや疲労が無いかに注意を払っている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束について勉強会を定期で実施し、全職員が理解できる様になっている。				身体拘束について勉強会を実施し、具体的な行為とは何か、介護者の都合で利用者の行動制限をする事がないか等、業務の振り返りをし、職員会で話し合っている。	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	家族からの拘束の要望は無い。しかしその様な事がある事例があれば、ご家族等と話し合い理解していただける様に努める。					
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	日常生活自立支援事業や成年後見制度について全ての制度理解は、不十分である。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	日常生活自立支援事業や成年後見制度の相談なく、対応等の積極的な支援は、できていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	対象者はいないが、困った事例があれば地域包括支援センターや社会福祉協議会との連携体制は、可能である。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルをいつでも閲覧できる場所にある。今年度は、コロナ状況により実施できてないが消防出前講座で「救命救急対応」を事業所内で受けており、職員は周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	今年度は、コロナ状況により実施できてないが消防出前講座で「救命救急対応」を事業所内で受けており、職員は周知している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを記録する習慣作りをしており、発生した時点で勤務者間で対策を考えて記録している。また、後日に対応の見直しもしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	起こりうるリスクを話し合い、両ユニットで共有して注意喚起して事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	事例は無いが、管理者に報告し、内容の事実確認をすくに対応できる様にしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	事例は無いが、管理者に報告し、内容の事実確認をすくに対応できる様にしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	事例は無いが、発生した場合は、誠意を持って利用者や家族と話し合いをし、理解を得ながら良好な関係性作りを行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の生活の中で、会話や言葉、表情、態度から思いを察する様に努めている。			○	日々の暮らしの中で、職員は利用者から意見や要望などを聞いている。意見などを伝えにくい利用者には、表情や態度から思いを汲み取り、対応している。家族の来訪時には、職員から声をかけ、意見や要望などを聞くようにしている。事業所内には意見箱があり、利用者や家族から意見を伝えることもできる。職員からは、年2回管理者が実施する個別面接のほか、フロア会議等でも意見を伝えることができる。また、管理者は日々職員とのコミュニケーションを大切にしていることもあり、職員等から出された意見や提案は内容によってはフロア会議の中でも検討し、職員と一緒により良いサービス提供にも努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議に参加している家族からは意見を聞けたり意見箱を職員から見えない場所に設置している。面会時等家族とコミュニケーションを持ち、話を伺っている。		○		
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時には、公的窓口の情報案内を行っている。しかしそれ以外は、情報提供できていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	利用者の状況や現場の状況を把握できている。業務中に、法人幹部が来て職員の意見を聞く機会あり。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	各職員と意見交換を実施し、職員とのコミュニケーションを大切にしている。				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員会やフロア会議で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の結果と目標達成計画の内容は、運営推進会議の中で報告しているが、取り組み状況の確認などモニター機能までには至っていない。今後は、運営推進会議に参加していない家族にも外部評価結果などが報告できるよう、全ての家族に会議録を送付したり、事業所便り等を活用して、評価内容を報告したりすることを望みたい。また、運営推進会議の参加メンバーに呼びかけ、取り組み状況などのモニター協力への取り組みなども検討することを期待したい。
		b	評価を通じて事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通じて事業所の課題を明確にしたり、職員会で意識統一を図ったり、今後の取組みに活かしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部評価の結果から、これから取り組むべき内容を確認し合い、目標達成計画を作成している。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族には手紙で報告している。運営推進会議メンバーには書面で見て頂き、結果・目標達成計画を報告。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員会や運営推進会議で、目標達成計画の成果を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害の発生を想定したマニュアルを作成している。地震・土砂災害など、災害の発生を想定して訓練を実施している。				年2回併設の保育所と連携して、地震や水害等を想定した避難訓練を実施している。訓練には消防署に協力してもらうほか、運営推進会議のメンバーにも参加協力を得ることができている。大規模災害の発生時には、実際に近隣にある系列の福祉施設に避難するなどの協力体制が確保できている。また、警察署の協力を得て、不審者の侵入などの防犯訓練も実施している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間・日中と想定して、土砂災害・火災・地震等災害の避難訓練を年間計画を立てて実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や屋外の避難経路の点検を行っている。また備蓄の確認は、災害避難訓練時には確認を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署職員、地域防災関係者に立ち会って頂きアドバイスを頂いたり、相談したりと話し合う機会を持っている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、近隣福祉施設の協力を得て屋外避難訓練を実施したり、1階の保育園と連携を組んで合同避難訓練を実施していた。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、法人で活動している認知症の方を地域で支える会「みかんの会」を結成しており、開催時には、事業所スタッフも協力参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地域のイベントに参加し地域の方との相談や交流を図っている。		△	○	現在のコロナ禍において、外出制限や面会制限等を設けているため相談支援の機会は減っているが、事業所として年数件の電話相談などを受けて対応している。以前は系列病院のイベントに参加して認知症などの相談支援を実施したり、市行政と連携を密にし、認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして、参加協力をする事ができていた。また、法人・事業所として、認知症の方を地域で支える「みかんの会」の結成や活動にも協力できている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていない。以前は、地域行事等交流する活動はあった。また音楽療法開催時は関連事業所利用者も参加し交流の場となっていた。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、介護職に興味ある高校生のインターンシップ受け入れは実施していた。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていない。以前は市主催の認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして協力する事で、市との連携を密にしている。			○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 5 月 27 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3891300166
事業所名 (ユニット名)	グループホームいしかわ かえで
記入者(管理者) 氏名	管理者 菅原 修司
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 15 日

<p>【事業所理念】</p> <p>ゆっくり・たのしく・いっしょに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な地域への参加が継続できる事で、地域の皆様への施設知名度や理解度が深まり利用者の楽しみ拡大や現在よりも、地域とのつながりを深める事で、協力体制の輪を広めたい。</li> <li>地域住民、近隣施設との協力、支援体制の構築に努める。</li> </ul> <p>(結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染対策により、屋外活動等自粛となり、今年度に関しては、目標達成は出来ていない状況多く、継続取り組みが必要である。</li> </ul>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所の属する「医療法人健康会」は、市内で医療・介護・福祉と幅広い事業を展開している。山に囲まれた自然豊かな場所にある事業所の建物は2階建てで、1階には併設の保育園があり、日々事業所内には園児の声が聞こえるほか、利用者との交流も頻繁に行い、利用者は楽しみにしている。また、建物の2階にある事業所は広くてゆったりとしており、大きなリビングの窓からは、四季折々の風景を楽しむことができる。事業所では共用型デイサービスも実施しており、各ユニットに3名の利用者がいるほか、在宅生活が困難になった共用型デイサービスの利用者が、通い慣れた事業所にスムーズに入居に至った事例もある。系列法人の病院も含め、医療連携体制が充実していることもあり、緊急時にも利用者や家族、職員等には安心感がある。職員からは、事業所の理念である「ゆっくり・たのしく・いっしょに」を常に心がけて支援しており、明るい雰囲気を感じられる。さらに、法人・事業所として、事業所内の保育園の活用やメモリアル休暇など、各種福利厚生なども充実していることもあり、職員が働きやすい職場環境づくりにも努めている。</p>
---------------------------------------	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の関わりを大切に傾聴し、本人の表情や言動から思いを汲み取り、ご家族からの思いや気づきは職員間で共有して支援できるように取り組んでいる。	◎		◎	入居時に、職員は利用者や家族から思いや暮らし方の希望等を聞き、センター方式のアセスメントシートに記録して把握に努めている。また、日々の関わりの中で利用者から得た情報は、更新時に追記している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	日常の動作や表情から気持ちを汲み取り、また家族からの情報収集等、本人の視点での支援に努めている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族や兄弟、親戚の方等が面会に来られた時はご本人の近況報告を行い、本人の思いについて話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	本人の言葉を大切に処遇記録を行いフロア会議等職員間で情報共有して、支援に生かせる様努めている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の関わりの中で、会話・行動・表情からご本人の思いを考えながら支援している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前には、本人・家族・ケアマネ等から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の情報収集に努めている。			○	入居時に、職員は利用者や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過などを聞いている。また、職員は入居前に担当していた介護支援専門員からも情報を聞いている。把握した情報はセンター方式のシートに記録を残しているほか、日々の関わりの中で得た新たな情報も職員間で共有し、更新時に追記している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常生活の状況観察の中から、有する力の把握に努め職員間で情報交換している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その時その場面で本人の行動や表情を職員間で情報交換して把握に努めている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	日々の処遇記録等で本人の状態を把握し、何が不安なのか身体面・精神面・環境面など要因を探りながら、得た情報を職員間で共有して把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	日々処遇記録で24時間の生活を記録して、変化があれば職員間で共有して把握している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	関りから得られた情報やご家族からの情報を基に、職員間で検討する機会を持っている。			○	月1回職員会議とフロア会議を開催している。フロア会議等ではカンファレンスも実施し、日々の関わりの中で得た利用者の情報や家族からの情報をもとにして職員間で話し合い、利用者の視点に立ったサービスを検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の暮らしの支援を大切にしており、気づきや情報はフロア会や申し送り等で話し合い検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	フロア会ではモニタリングを行って、今後の支援や課題を明らかにし支援に生かす事ができる様に取り組んでいる。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いは日頃の生活で発せられる言葉や暮らし方で把握し、介護計画に反映されるように努めている。				事前に、職員は利用者や家族から意向を聞き取るほか、主治医や看護師からも助言をもらっている。把握した情報を基にしてフロア会議等を活用して職員間で話し合い、意見を反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	ご家族には、意向確認や医師等関係者の指示や助言をもらい、職員間でカンファレンスを実施して介護計画を作成しケアに努めている。		◎	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	今後の暮らしに関して、家族の意向や医療職の意見も聞いて支援に努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為活発には実施が出来ていないが、本人や家族と話し合い、地域とのつながり(美容室利用)を盛り込んでいる。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画は、各利用者ごとにファイルに閉じて職員誰もが確認できる状況にある。			◎	利用者の介護計画の内容は、カンファレンス時に職員間で共有しているほか、個別ファイルにしていつでも職員が確認できるようにしている。A4サイズの個別の介護経過表には介護計画が転記されており、介護計画に沿ったケアの記録ができるようになっていることもあり、日々の支援につながっている。利用者の日々の暮らしの様子や支援した内容は、個別の処遇記録のシートに記録されている。また、利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫などは個別に申し送りノートにも記録を残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	フロア会議では状況確認しながら、今後の支援につなげるモニタリングを行っている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしの様子は、会話・表情・行動等を個別に記録している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	利用者の些細な事でも、気づきがある時は職員間で共有できる様にフロア会で意見を出し合ったり、申し送りノートを活用し取組んでいる。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	新規入居の場合は、1か月後、3か月後に見直しを実施。継続での入居の場合は、3か月で見直しを実施。			◎	新規利用者は、1か月後と3か月後に介護計画の見直しをしている。継続の利用者の計画は、3か月に1回見直しをしている。利用者の新たな要望や変化が見られない場合にも、職員は月1回利用者の現状を確認し、モニタリング記録表に記録を残している。また、利用者の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合には、その都度職員間で検討し、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月入居者の状況を話し合い、モニタリング記録をして、現状確認をしている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態変化(ADLの低下・入退院等)が生じた場合は、随時計画を見直している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎朝カンファレンスを実施し情報共有し、検討内容は申し送りノートで休みの職員に伝達できる様になっている。月1回の職員会議とフロア会議を開催し意見交換できるように取組んでいる。			◎	チームとしてケアを行う上での課題解決をするため、朝の申し送り時のほか、月1回開催する職員会議やフロア会議を活用して職員間で話し合いをしている。緊急案件がある場合には、その都度出勤している職員で話し合いをしている。また、参加できなかった職員には、申し送りノートやフロア会議議事録を確認してもらうなど、情報の共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	フロア会議では、担当者からの意見を会議までにまとめ発表できる様に準備し、他の職員は発表を聞き意見交換できる場を設けて自分の意見を述べてもらう方法を実施している。。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	開催日時は決まった曜日設定し、職員もあらかじめ予定が立てて参加しやすい様に工夫している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	職員会議議事録・フロア会議議事録を作成している。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	日々の申し送り事項は申し送りノートを作成し、受診では受診記録を作成し、確認した職員がサインする仕組みがあり、共有できている。			◎	日々の申し送り事項は申し送りノートに記録し、職員は出勤後にノートを確認して押印する仕組みができている。重要事項は職員間で分かりやすいように、赤ペンでの記載や赤線を引く工夫をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	各自の処遇記録やフロア日誌、申し送りノートに記録して全職員に伝わるように取組んでいる。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日々の会話や生活の中で思いを把握する事に努めている。	/	/	/	職員は、利用者によるその日着る服や靴下など、二者選択できるように準備して選んでもらっている。自己決定が難しい利用者には、家族に好みの服を持って来てもらい、職員が声をかけて支援している。日々職員は利用者と同じ目線を合わせて、ゆっくりと会話をするよう心がけた支援に取り組んでおり、利用者の活き活きした言動や表情が引き出せるように努めている。また、リビングの窓から見える四季折々の景色は素晴らしく、そこから利用者の思い出話に花が咲いて盛り上がることもある。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	洋服等は自分で選んでいたたり、難しい場合は二者選択できる様に努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	日頃から会話等を通して、信頼関係を深めて思いを表現する様に努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	基本的には、利用者の希望を組んで対応している。全て実施出来ているかとなると、全てではない時もある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者の視線に合わせて何気ない世間話などを楽しむ時間を持つ様にしている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	声かけをしながらスキンシップを図り仕草や表情をみて本人の思いを探る様努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	法人内・事業所内研修を実施し、利用者の人権や尊厳を守る事を大切にして関わる様に学習している。	◎	◎	○	法人の合同勉強会や事業所の勉強会で、職員は人権や尊厳などについて学び、日々利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい支援をしている。トイレ誘導時には、職員は利用者による小聲でさりげない声かけをしている。また、職員は利用者一人ひとりの居室は専用の場所で、プライバシーのあることを理解しており、居室への入室時にはノックや声かけなど事前に了解を得ることができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人前での排泄の声かけは、小さな声で支援したり、目立つ様な声かけをしない様にしている。一人でトイレの場所がわかる様に、目印もつけている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄に関しても、小さな声で声かけをしたり、入浴時は、同性介助希望利用者には同性介助で支援する等対応を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者の個室に出入りする場合は、一言声かけやノックをして居室出入りする様に努めている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	法人や事業所で勉強会を実施し法令遵守して支援できる様に取組んでいる。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者が、洗濯物を干したり積極的に「ここ持ってきな」との言葉をかけて下さったり、助けて頂いた時には感謝の言葉をお伝えする対応を心がけている。	/	/	/	日頃から職員は利用者同士の関係性を把握し、座席の位置などの配慮ができています。利用者同士がトラブルになりそうな場合には、職員が間に入って双方の話を聞き、気分転換ができるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	下膳をされたり、帰宅願望がある利用者の思いを隣で聞いてやさしい言葉を掛けて下さったり、利用者同士で支えあう場面がある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	仲の良い利用者同士が過ごせる座席の配慮をしてトラブルにならない様に支援しているが、トラブルが起こりそうは雰囲気の場合、職員が間に入りそれぞれの利用者の思いを傾聴し、気分転換が図られる様に努めている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者による不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士の関係性には留意し、トラブルにならない様に座席など配慮している。双方の思いを傾聴して楽しい気持ちに転換できる様に支援している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居前には情報を収集して把握に努めているが、入居後に情報を得ることも多い。得た情報は職員間で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前には情報を収集して把握に努めているが、入居後に知り得た情報もあり、得た情報は職員間で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、ほんの少しの期間を利用して馴染みの美容院へ出かけられた。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、リモート面会を活用しご家族や親せきの方との交流を図っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、ほんの少しの期間を利用して外出し利用者の希望を取り入れられた。	○	×	△	現在はコロナ禍のため、利用者の外出制限を設けている。事業所では、利用者が少しでも外出できるように、地域の新型コロナウイルス感染状況を確認しながらドライブしたり、少人数の利用者でファミリーレストランでケーキを食べたり、喫茶店等にコーヒーを飲みに行くなどの工夫もしている。また、重度の利用者もドライブしたり、玄関前の花の観賞をしたりするなど、気分転換ができ、気持ち良く過ごせるように取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、ほんの少しの期間を利用して外出し気分よく過ごして頂けたと感じる。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていない。希望があれば、ご家族等相談しできる範囲内で支援したい。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者の状態変化が見られてたり気付いた場合は、職員間で話し合い、解決に向けて努めている。	/	/	/	日常生活の全般において、利用者自らが「できること、できそうなこと」に対して、職員は手や口を極力出さずに見守ったり、一緒にしたりしている。また、入浴時には、利用者が洗身できることは見守り、できないところを介助している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ラジオ体操や地域(しこちゅう体操)の体操、口腔体操等を毎日実践している事で、自然と動きの中から身体機能維持につながっている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	洗濯干し、アイロンかけ、本人が自主的に行っている活動は、見守りをして一緒に行うようにしている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	事前調査や日常の会話や生活様子から、その方の得意な事、役割りや楽しみを把握するように努めている。	/	/	/	洗濯物干しやアイロンをかけ、おやつ作り、レクリエーションのリーダーなど、事業所では利用者一人ひとりの役割や出番がつけられるように取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	利用者一人ひとりが活躍できる場面(掃除・洗濯・体操・歌・レクリエーションでのリーダー等)をつくり、張り合いを持って生活出来る様に、出番を作る支援を心がけている。	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地域の催し物に参加して楽しみを感じて頂ける支援は整っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	地域的美容室利用を希望される方には、店主さんと連絡をとり希望に添える支援を試みたり、外出が難しい方は地域の理容師に来ていただいてカットをお願いしている。				職員は、利用者の食べこぼしをさりげなく拭いたり、拾ったりするなどのフォローをしている。重度で自己表現ができない利用者には、家族に利用者の好みの服を持ってきてもらっている。また、髪形は利用者の好みを把握し、行きつけの美容室に出かけて整えてもらっている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	地域的美容室利用を希望される方には、店主さんと連絡をとり希望に添える支援を試みたり、外出が難しい方は地域の理容師に来ていただいてカットをお願いしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご家族さんが持って来て下さったものの中からも、好みの色やデザインや季節を考慮した洋服を選んでアドバイスしたりしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	好みをよく知っている家族が、洋服を持ってきて下さる事もある。季節に合った素材を職員と一緒に選ぶ事もある。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	食べこぼしに関しては、さりげなく職員が介助している。また、衣類が傷んで古くなった物は家族と話し合って持って帰っていただき、身だしなみが整うように支援している。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望利用者に対しては、行きつけの地域的美容室へ行くことができる様に本人・店主・家族と日程を調整し入居時に理容・美容の希望を確認して支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	ベツ上で過ごす事多い重度の方に対しても、日中は寝衣ではなく、洋服で過ごしていただいている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	嚥下状態に合わせて食事形態の見直しを行っている。				献立と食材は業者に外注している。事業所で炊飯と汁物を調理するほか、届いた食材は湯煎して、利用者の咀嚼や嚥下状態に合った食事形態にして、盛り付けて提供している。炊飯は事業所内で調理しているため、近隣の竹林に利用者と一緒に外注して、収穫した食材の皮をむいて、竹筒飯を作るなど、季節を感じる献立なども取り入れている。事業所では、利用者と一緒に外注して、楽しみながら行っている。青魚が食べられない利用者には、事前に業者に伝え、白身魚に代替えするなどの配慮をしている。食後の下膳やテーブル拭きなど利用者と一緒にしている。事業所では、利用者が使い慣れた茶碗や湯のみを使用している。職員は、一人ひとりの好みや状態にあった食事形態などの確認や把握しながら見守りや食事介助をしていることもあり、利用者と同じ食卓を囲んで食事をすることはできていない。今後は、利用者と一緒に食事が摂れるよう、職員間で検討することを望みたい。また、重度な状態の利用者も食事前にはリビングで過ごしてもらい、調理の音や匂いから食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりにも努めている。月1回の職員会議やフロア会議の時に、旬の野菜を取り入れた献立や調理方法などについて職員間で検討している。さらに、令和3年4月からは、月2回利用者の状態に沿った食事形態などについて、栄養士からアドバイスを受けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	△	献立や食材は、外部業者に発注。調理は施設で実施。後片付けもできる利用者にはお手伝いしていただいている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	後片付け、台所清掃など一緒にしている。また、得意のおやつ作りをする時もある。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居前にはアレルギーを含め嗜好を確認している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	春や秋は近隣の竹林や栗林へ一緒に出かけ、竹掘りや栗拾いをし、季節を感じる献立と一緒に考えて下さる方も一緒にしている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	咀嚼・嚥下状態に合わせて食事形態を提供している。排便状態は把握しており、便秘の場合はオリゴ糖入り牛乳を飲んでいただく支援もしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自分専用の持ちやすい茶碗・湯呑み等を使用している。共有の皿も含め、温かみのある陶器を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	さりげなく一人ひとりの様子を見守って食事の支援(食べ方混乱・食べこぼし等)を個別にさりげなく行っている。食事介助の支援も行って、なかなか一緒に職員が食卓を囲む時間は摂れていない。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度の利用者も、調理の音やにおいが感じられる様な場所で休憩して頂いたり、食事介助中はコミュニケーションをとりながら支援している。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事摂取量や水分摂取量は、日別のチェック表に記入し全職員が把握出てる体制で実施している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量の少ない利用者、好きな飲み物で摂取できる様に対応を行っている。しかし工夫しても食事が低下している利用者に関しては、訪問診療で医師より助言をもらい栄養補助飲料を摂取する場合もある。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は、外注業者に依頼しているが、職員間で検討し近隣で採った旬の野菜を生かして提供できる様に工夫している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	夜勤者が調理器具等の消毒を実施している。食材に関しては日々業者から食材が配達されている。配達後は冷蔵庫にすぐ保管して衛生管理に努めている。				



項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食事前は口腔体操を、食後は口腔ケアを実施して誤嚥性肺炎予防に取り組んでいる。定期で口腔ケア指導を歯科衛生士から受けており、職員に介助方法の助言がある。				毎食前に、利用者がうがいと口腔体操をするほか、毎食後は歯磨きを実施している。職員は磨きの残しなど、利用者のできないところを介助している。また、月1回歯科衛生士の訪問があり、利用者一人ひとりの口腔内の健康状態を把握し、不具合が生じた場合には、歯科医の訪問診療につなげることができている。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	定期で歯科衛生士が訪問しており、一人ひとりの口腔内の健康状態を把握するように努めている。歯科衛生士の助言で、必要時は歯科医訪問診療を受ける事もある。			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	毎月1回歯科衛生士が訪問しており、口腔衛生管理体制を整えている。職員に対して口腔ケアの指導がある。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者の能力に応じてし、見守りや介助を行って義歯の手入れを支援している。・消毒等は職員が対応。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	食事前後には必ず口腔ケアができる様に支援している。口腔の衛生が保てているか、全利用者に対して歯科衛生士の訪問があり、支援方法の助言ももらっている。					◎
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔内の不具合は、まず歯科衛生士に確認してもらい、その後歯科医による訪問診療につなげるようにしている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	重度利用者に対しても、トイレでの排泄支援を大切にしている。立位困難であっても座位が保持できる利用者は、2人介助でトイレへ移乗して排泄できる様に支援している。				トイレで利用者が排泄できることを基本として、利用者一人ひとりのその時の状態に合った支援をしている。排泄状況は記録に残し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、職員は声かけやトイレ誘導をしている。日中、重度でも座位が保持できる利用者には、紙おむつからリハビリパンツに替わり、トイレで排泄できるようになった事例もある。また、必要に応じて、適切な排泄用品の使用を話し合い、利用者の尿量に応じてパッドも使い分けしている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排便に関し、日々記録をして把握している。また、便秘にならない様に医師や看護師から助言も仰ぐ事もある。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排便に関しては記録をし、常に間隔・量等の把握に努めて支援している。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	重度利用者に対しても、座位が保てる利用者はトイレでの排泄支援を大切にしている。	◎		◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄が間に合わない利用者に対しては、早めの声かけを行ったり、夜間はポータブルトイレを使用する場合もある。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄のパターン・兆候・間隔を把握し、トイレ誘導は早めに声かけ誘導を支援している。特に排便に関しては、ゆっくりと落ち着いて座る時間が持てる様に支援している。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	尿量や排泄パターンを検討し、どのような種類がよいか話し合って支援している。夜間は尿量やトイレ回数に合わせて支援している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	利用者の排泄パターンを把握して、日中・夜間を使い分けしている。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	牛乳・オリゴ糖・ヨーグルト・バナナ・体操等の支援をし、またトイレに座る習慣も大切にして、排便コントロールを支援している。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	予め予定は組んでいるが、その時の希望や状況に合わせていつでも変更ができる態勢をとっている。本人の希望で同性介助にしたり、入浴順番等は個々の希望を大切にしている。	◎		○	利用者は、週2回以上入浴することができる。事業所では、事前に利用者の入浴予定日を決めているが、その時の利用者希望や状況に応じて対応している。入浴を拒む利用者には声かけをして、入浴する順番や入浴日を柔軟に変更する場合もある。また、利用者の希望で同性介助にも対応したり、湯船に浸かる時間も調整して対応できるよう努めている。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	ひとりの個浴対応であり、介助者と会話を楽しみながらゆったり入浴できる様に支援している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	声かけをして、できない部分のみの介助をしている。必ずマンツーマンで職員が付き添い安全安心な入浴実施ができる様に支援している。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず、拒否がある時は時間や日を変えて支援するようにしている。	◎	無理強いはせず、拒否がある時は時間や日を変えて支援するようにしている。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックや入浴前の健康状態を観察して見極めている。入浴後は水分補給をして状態観察を継続している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	利用者の睡眠パターンをほぼ把握しているが、日によってパターンが違って来てもあり、完全な把握は難しい。				職員は一人ひとりの睡眠リズムを把握して、日中の活動量や過ごし方を見直し、利用者が安眠できるよう努めている。夜間に不眠の利用者がいても、事業所では見守りながら薬剤に安易に頼ることのない支援をしている。不眠が続く利用者には、医師や看護師のアドバイスを受け、職員間で話し合いながら対応している。また、事業所での支援により、薬の減量につながった利用者もいる。現在、4名の利用者が睡眠導入剤を内服している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	睡眠リズムを確認して、昼夜逆転にならない様に日中活動的に楽しく過ごせる様に支援している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	薬剤に関しては医師と相談しており、夜眠れない時があっても安易に薬に頼る事なく、まず睡眠リズムを確認して様子観察をしている。その後日中の活動量を見直したり、昼夜逆転になっていないか留意して、日中は楽しく過ごせる様に支援している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室は個別であり本人の希望や身体状況に合わせて、休憩時間を設けるように支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	家族から贈り物があった場合は、お礼の電話をかけたいと希望者にはご家族に電話する事ができる様に支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	意向に応じて支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	利用者から電話をかける希望者は、現在少ない状態。家族と電話される場合は、部屋を使用して静かに電話でき気兼ねなく話せる配慮は行っている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙やはがきは必ず利用者に手渡し御覧になられている。しかし返事を書くまでには難しい。文字が苦手な場合は電話でお礼の返信を送る事がある。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	利用者のご家族に電話をかける事については、ご家族も理解を得ている。また、現在のコロナ状況で電話での互いの声を聞いたりして安心する一つとなっている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を使う事の意味が個人の尊厳につながると理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	買い物の時や地域的美容室へ行った時には所持金を使用するが、日常的ではない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	美容室へ出かける利用者に対し、店主と協力を得る働きかけをしお金を所持して支払いできる様に支援している。他の利用者には、職員が付き添って自分のお金が支払える様に見守りしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	所持方法や金額は、家族や本人と話し合って決めている。自己管理の難しい方については、施設が預り金として管理し、必要時に使わせて頂いている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	所持方法や金額は家族や本人と話し合って決めている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入居時に管理方法や報告方法の説明を行い、同意をいただいている。また毎月出納帳と領収書を家族に送付して確認していただいている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	面会時に本人の状況を報告し、家族の状況も報告して頂いている。馴染みの美容室に行ける様に、現在のコロナ状況も合わせて本人・家族、業者と話し合っている。できる範囲での対応は心がけている。幸い、ちょっとした期間を見計らい実施出来た。	◎	○	系列の医療機関を受診する場合には、職員が同行支援している。外出時に、利用者の希望と一緒に買い物をする事もある。現在のコロナ禍において、家族との外出などの要望には応えられない場合があるが、可能な限り外出などができるよう取り組んでいる。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関には自動販売機やベンチを設置しており、散歩途中の高齢者や四国遍路の方が休憩される。いつでも誰でも休憩できる様にしている。1階には附属保育園があり、にぎやかな声が施設まで聞こえてくる。	◎	○	◎	事業所のある建物は2階建てで、1階は保育園があり、2階が事業所となっている。1階の事業所専用は玄関前には自動販売機やベンチが設置され、お遍路さんの休憩場所にも活用されている。保育園の窓ガラスにはかわいい張り紙がしてあったり、玄関前に花のプランターが並べられたりしているなど、親しみやすい雰囲気となっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがあふれる。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	フロアや廊下には畳みベンチを置いて、ちょっとしたおしゃべりを座って楽しむ事ができる様にしている。中庭には家族が作ってくれた巣箱を設置し、毎年すずめの巣立ちを見守っている。また家族が寄贈してくれたグランドピアノもあり、一緒に歌を歌ったり交流行事の場となっている。	◎	◎	◎	共用空間は広く、テーブルやソファ、畳みベンチ、ピアノなどが設置されている。中庭には巣箱やたくさんの植物の鉢が置かれている。リビングの窓は広く、利用者や来訪者は季節折々の風景を楽しみながら、ゆったりと過ごせるような雰囲気づくりがされている。訪問調査日には、壁に利用者と一緒に作った折り紙の紫陽花やてるてる坊主が飾られているほか、広い窓から竹林やさつきが咲いている様子を見ることもでき、季節を感じることができた。事業所内の採光はブラインドで調整し、不快な臭いなどはなく、掃除は行き届いている。また、日々の生活の中で、利用者や来訪者は自然を目にしたり、鳥の鳴き声を聞いたりできるほか、1階にある保育園児のにぎやかな声を聞こえるなど、生活感を感じながら居心地よく過ごすことができています。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	利用者が陽の光が眩しい時にはブラインドにて調整している。1階の保育園の子供達の遊ぶ声、周囲の山々の鳥のさえずりが聞こえる環境で、生活出来る様に支援している。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	調理の匂いで今日のご飯は何かと話題にしたり、食欲が増す環境で生活出来る様に支援している。窓が大きいので、自然の光や近隣の山々の自然が目に入り、外出したいという意欲につながっている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングにはソファがあり、好きな場所に座って気の合う仲間同士が交流でき、また廊下も広い畳みベンチを設置し、思い思いに自由に過ごせる様にしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	共用空間はL字型であり、トイレや浴室はリビングからは見えない場所に設置している。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族協力のもと、嫁入り道具の鏡台、使い慣れたタンス、家族の写真、手紙など、利用者にとってなじみのある物を居室に置いて、居心地よく生活出来る様に支援している。	◎		◎	居室には、利用者が使い慣れたものを持ち込むことができる。鏡台や筆筒を置き、家族の写真や好きな歌手の写真・グッズを飾り、利用者にとって居心地よく過ごせるような空間づくりの支援をしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	リビングの壁には手すりを設置し、付き添いは必要であっても歩行できる環境である。また、トイレ内も歩行しながらトイレ動作ができるように連続して手すりを設置している。また、車椅子を自走できるようにローカ幅は広くとっている。			◎	事業所では、利用者が生活しやすいようリビングの壁やトイレ内には手すりを設置しているほか、大きく「トイレ」と表示している。また、各居室の入口には縦型の表札を設置するなど、利用者が迷わず、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	トイレへの場所がわかりやすい様に表示している。また、自分の居室がわかりやすい様に表札を設置している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞は身近に置き、読みたい人が読めるようにしている。また、洗濯干しが自由にできる様に、物干しハンガーを置いている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	自由に家族や地域の方が出入りできる様に、日中は外玄関の鍵はかけていない。ユニット間は事務所・台所を通じて常に開放しており、自由にユニット間を行き来できる様にしている。	◎	×	△	事業所は民家から離れた山間部に位置することから、警察署から防犯対策の指導を受けて、1階の玄関は昼間は鍵をかけていないが、夜間は防犯のため施錠している。2階のユニットの内玄関には常時鍵をかけているが、入居時に家族に説明して承諾を得ている。また、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、外出したい利用者には玄関前に一緒に出るなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	入居前に防犯の意味合いでの夜間の施錠時間を説明して理解を得ている。しかし連絡をいただければいつでも面会は可能である事も説明して理解を得ている。ユニットの内玄関は、近隣の傾斜のある山間部でもあり、安全面を第一に考え施錠している。出たい様子や希望があれば、スタッフが付き添い出られる状況にはある。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	日中は外玄関の鍵はかかっていない。自由に家族・地域・業者の方が出入りできる状態。2ユニットの間にある事務所や台所は常に開放しており自由に生活出来るようにしている。しかしユニットごとの内玄関は、隣近所のない山間部でもあり、防犯の面から施錠している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居前事前面接の記録や入居後も身体状況の変化に対する留意事項は職員間で共有できるように、記録(受診記録等)をしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	訪問看護師と共有できる健康チェック表を記録している。また、排便や排尿状態の確認チェック表を記録し、気になる点は訪問看護に報告し受診の必要性の有無を助言を仰ぐ。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	母体が医療機関であり、また訪問看護師とは24時間連絡がつくようになっており、気軽に相談できる関係である。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時は、家族や本人の希望でこれまでの病院に継続して受診する事ができる様支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	受診した場合は家族に報告している。状態に応じて家族に付き添っていただき、医師からの状態説明と一緒に聞いていただいている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	入居前に受診について、家族と話し合っている。事業所が受診介助した場合は、受診結果を家族に連絡。また家族が受診付き添いをした場合は情報をいただき、お互いに受診に関しては情報交換できるようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、サマリーを医療機関に提出して情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中は面会に行き、病院関係者と情報交換をした家族の同意を得て、病院関係者とのカンファレンスに同席させていただき、病状の回復状態を把握できる様に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院時にはサマリーを病院に提出し、情報提供する様に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週3回は訪問看護師の定期訪問があり、身体的変化がある場合は、訪問看護師に伝えて助言をもらっている。早期受診を支援するケースもある。月2回は協力医療機関の医師の訪問診療があり。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	週3回は訪問看護師が来ている。24時間いつでも連絡が取れる体制が整っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃の健康管理や状態変化は早期の段階で訪問看護師に相談し、助言をもらい、必要に応じて受診・治療につなげている。早期対応・治療につなげるように努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	受診時は受診記録を記入して薬情報も確認し、用法や用量は確実に申し送りして薬に対する理解を深めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	ダブルチェックを行ない、指示どおりに服薬できる様に取組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	内服薬が変更した場合は、受診記録を確認して変更理由を共有しており、状態観察を継続している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	月2回の訪問診察時には医師に状態を報告し指示を仰いでいる。様子は個別のカルテに記入し、変化があれば医師、家族に連絡している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居の契約時に、家族に看取りケア・指針について説明している。看取り開始となった場合は、面会時を利用して家族との話し合いの場を持って、状態の変化を報告して意向や思いをその都度確認している。看取りに関して医療職との情報共有を十分行っている。	/	/	/	事業所には、「看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明をして、同意を得ている。利用者が重度化した場合には家族の意向を確認し、医師や訪問看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有して支援している。母体は医療法人ということもあり、事業所には月2回の訪問診療のほか、週3回の訪問看護があり、協力連携体制が整っている。また、事業所では開設から8名の看取り介護を経験しており、職員教育や職員間で話し合いをしながら取り組むことができている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	職員・訪問看護師間で話し合いを持っている。看護師の助言は日々記録し職員間で共有している。医師とも連携をとって、利用者の状態・家族の意向・支援内容を共有している。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	これまでの看取りのケースを反省し、職員の思いをアンケート調査して看取りに対する思いや不安などを把握している。訪問看護師も一緒に、職員の不安が解消できる様に一緒に話し合っており取り組んでいる。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	重度化した場合の事業所内で、できる支援について説明し、同意をいただいている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族には状態説明をしており、医師・訪問看護師等の医療職とも情報共有している。今後の変化に備えて、医師や訪問看護師からは具体的な指示や助言を仰いでいる。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	身体的状態や変化を説明し、医師や訪問看護師から直接説明を受ける事ができる様に日程の調整を支援する事もある。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染委員会が中心になって予防策や対応策の勉強会を実施している。また法人内でも感染委員会が中心になって開催される勉強会に参加している。	/	/	/	事業所には、「看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明をして、同意を得ている。利用者が重度化した場合には家族の意向を確認し、医師や訪問看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有して支援している。母体は医療法人ということもあり、事業所には月2回の訪問診療のほか、週3回の訪問看護があり、協力連携体制が整っている。また、事業所では開設から8名の看取り介護を経験しており、職員教育や職員間で話し合いをしながら取り組むことができている。
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	法人感染委員会が中心になって勉強会を実施し、また事業所でも各ユニットごとに訓練を実施している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	法人感染委員会が中心になって、地域の感染症発生状況の最新情報を入手し、情報共有できている。また母体が医療機関であり、ネット上で最新情報の共有ができる様になっている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	感染症の流行期には法人感染委員会が中心になって、対応等についての研修会を実施している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤後、退社前には手洗いやうがい、手指消毒をしている。利用者も食事前後・帰所後の手洗いやうがいを徹底している。玄関には手指消毒剤を常備し、検温等来訪者にも協力を依頼している。	/	/	/	



項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族状況を把握した上で、外出支援・病院受診なども無理のない範囲で協力いただいている。家族と外出した場合は、様子をお聞きして情報共有している。				現在はコロナ禍のため、面会制限や外出制限を設けているが、以前は家族の来訪時にはリビングのピアノを弾いてもらったり、レクリエーションに参加してもらったり、地方祭に現地で行き合わせをするなど、一緒に楽しんでもらうことができていた。面会制限もあるため、現在は行事や活動への参加はできないが、家族の希望に応じて、オンライン面会を取り入れる工夫をしている。毎月、家族には利用者の近況報告を記入した行事予定表や行事写真を送付するほか、年4回事業所便りも送付している。また、事業所の運営上の事柄や出来事についても、毎月の行事予定表等を活用して一緒に報告するほか、内容によっては電話で直接職員が伝えることもある。また、家族の来訪時には、職員から声をかけ、気軽に希望を伝えたり相談したりできるような雰囲気づくりもしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	現在は、新型コロナウイルス対策に面会中止しているが、面会時は、居室でゆっくり過ごしたり、フロアで過ごしたり、利用者や家族が思いのままに交流できる様に支援していた。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事案内を毎月お知らせしている。現在は新型コロナウイルス対策で実施出来ないが、面会時は普段のレク活動と一緒にされる家族や地方祭では、現地で待ち合わせをして一緒に参加する家族もある。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	行事予定表に一筆状況報告を記入し家族に送付したり、また広報誌を送付している。		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	現在は新型コロナウイルス対策で実施出来ないが、面会時には、家族とコミュニケーションをもつ様に心がけて、直接は言いにくい事がある事も理解しつつ、家族の思いを理解する様に努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族双方が、より良い関係が築けられる様に努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営上の事柄や行事予定等は毎月の手紙で知らせたり、内容によっては直接電話連絡をして報告している。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていない。				
		i	利用者一人ひとりへ起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時や体調変化時には、転倒の可能性や状態急変などの起こりうる説明をし、面会時には近況報告をして、今の状況を理解していただける様に努めている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族の面会時はコミュニケーションをとり、状況説明をしながら、気軽に意見を言っていたに心がけている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には丁寧な説明を心がけている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	入居時には終末期の意向確認をさせていただき、看取りの説明も行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に料金の内訳を重要事項で説明させていただき、同意を得ている。変更事項がある場合は文書でお知らせし、また個別に説明させて頂いて同意を得る様にしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地域の民生児童委員さんと役員さんに地域イベントに参加する時には、事業所の理解を図って地域の輪に入れて頂いている。	/	○	/	現在はコロナ禍のため、面会制限や外出制限が設けられているため、地域住民との交流は減っている。以前は、利用者と一緒に地方祭や地域の運動会などに参加して地域住民との交流があったが、ほとんどの行事は中止となっている。系列の福祉施設や1階にある保育園児との交流は可能な限り継続している。また、事業所専用の玄関前には自動販売機やベンチが設置され、お遍路さんの休憩場所にも活用されている。さらに、法人・事業所として、認知症の方を地域で支える「みかん会」を結成して活動にも協力できている。管理者は、「コロナ終息後は、地域の活動や行事への参加を再開し、地域住民との交流を深めたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、山間部であり民家は無いが、1階の保育園の子供や職員、近隣のグループ福祉施設との交流は継続している。運営推進委員からは地域の活動(祭り等)の情報をいただいで、参加させて頂いている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地域の祭り・運動会、に参加させて頂く事で、事業所の存在は知って頂けており、理解して下さっている方は増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが行事以外でも1階保育園児が立ち寄って遊びに来てくれる事あり。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、1階の保育園の子供や先生とは気軽に声をかけ合っている。また地域に出た時は、運営推進委員の方と気軽に世間話をしており、山間部ではあるが日常的なおつきあいをしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地域の美容室の方がお迎えで美容室へ出かけられる方もいる。誕生会ではご家族がボランティアとしてピアノを弾いて盛り上げてくれている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、美容室への外出をしたり、飲食店に出かけたり、地域との結び付きを切り離さない暮らしの継続に努めている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地区神社の祭り・公民館行事・夏祭り行事等に、誘っていただいている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為書面報告対応を行なっているが、以前は家族・地域の人等誰かの参加がある。全て全員が必ず出席とは難しい。	/	○	○	運営推進会議は、ユニット内のリビングで利用者や家族、市担当者、民生委員、婦人会会長、商店の方などの参加を得て開催している。現在はコロナ禍のため、資料を送付して意見を聞くなどの書面開催となっている。会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況などを報告し、参加者と意見交換などを行っている。会議で出された意見を反映した取組みを行っているが、取組み状況やその後の報告までには至っていない。今後は、会議へ多くの家族の参加を呼びかけたり、会議メンバーからの意見や提案の取組み状況を報告したりするなど、家族や地域住民から事業所へより一層の理解を図り、信頼関係や協力支援体制が深まることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為書面報告対応を行なっている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為書面報告対応を行なっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為書面報告対応を行なっている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	来訪者が閲覧できる様に玄関先に設置している。	/	/	/	



項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>											
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員会で理念について共通意識を確認している。また、玄関や各ユニットごとに掲示している。				法人・事業所として、職員のストレスチェックを実施しているほか、年2回管理者は職員との個別面接を実施し、意見や要望を聞いている。代表者は年数回、事業所の職員会議にも参加し、職員へ激励の言葉などを贈っている。法人内の合同勉強会や事業所の勉強会で職員育成に取り組むほか、感染症対策や介護計画などの外部研修にも参加することができるよう支援している。また、法人・事業所として、事業所内の保育園の活用やメモリアル休暇など、各種福利厚生なども充実し、職員が働きやすい職場環境づくりにも努めている。		
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関や各ユニットごとに掲示しており、入居時にも家族にも伝えていく。	○	○				
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修案内が届けば、職員に参加希望を確認し、希望者はできるだけ参加できる様になっている。						
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設内の勉強会年間計画もありスキルアップできる様に取り組んでいる。資格取得に向け、法人で合同勉強会を開催しており、スキルアップできる体制作りをしている。						
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	人事考課制度があり、各職員の自己評価や向上心を確認して年2回管理者と面接を行っている。						
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	現在はコロナ状況で中止しているが、市内グループホーム交流会や相互研修を企画している。また県地域密着型サービス協会に加入している。						
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	法人として、職員のストレスチェックを実施している。	◎	◎	○			
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	法人での身体拘束適正化講習を開催し、全ての職員が参加しまた、職員会時にも施設でも勉強会を開催している。					職員は、法人が実施する身体拘束適正化講習に参加するほか、事業所の勉強会等で学ぶ機会があり、職員は理解して、日々のケアの中で虐待や不適切なケアが見逃されないよう注意しながら支援している。不適切なケアを発見した場合には、職員同士で注意し合うほか、管理者へ報告して対応している。また、重要な案件や内容については、職員会議の中でも報告し、全職員に周知して再発防止に努めている。	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日頃のケアで気になる点は、その日に話し合い、改善できる様に努めている。						
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	気になる言葉使いやケアはその時点で、職員同士が互いに話し合い注意し合い、管理者に報告する様になっている。虐待に関して、管理者に報告し緊急時にはその場で検討対応を行い、必要時には職員会で全職員による再検討を行う。						○
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員に対して、言葉がけを注意し心がけている。会話時の様子や勤務の様子から、ストレスや疲労が無いか注意を払っている。						
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束について勉強会を定期で実施し、全職員が理解できる様になっている。						
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束について勉強会を実施し、具体的な行為とは何か、介護者の都合で利用者の行動制限をする事がないか等、業務の振り返りをし、職員会で話し合っている。						
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの拘束の要望は無い。しかしその様な事がある事例があれば、ご家族等と話し合い理解していただける様に努める。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	日常生活自立支援事業や成年後見制度について全ての制度理解は、不十分である。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	日常生活自立支援事業や成年後見制度の相談なく、対応等の積極的な支援は、できていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	対象者はいないが、困った事例があれば地域包括支援センターや社会福祉協議会との連携体制は、可能である。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルをいつでも閲覧できる場所にある。今年度は、コロナ状況により実施できていないが消防出前講座で「救命救急対応」を事業所内で受けており、職員は周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	今年度は、コロナ状況により実施できていないが消防出前講座で「救命救急対応」を事業所内で受けており、職員は周知している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを記録する習慣作りをしており、発生した時点で勤務者間で対策を考えて記録している。また、後日に対応の見直しもしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	起こりうるリスクを話し合い、両ユニットで共有して注意喚起して事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	事例は無いが、管理者に報告し、内容の事実確認をすくに対応できる様にしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	事例は無いが、管理者に報告し、内容の事実確認をすくに対応できる様にしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	事例は無いが、発生した場合は、誠意を持って利用者や家族と話し合いをし、理解を得ながら良好な関係性作りを行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の生活の中で、会話や言葉、表情、態度から思いを察する様に努めている。			○	日々の暮らしの中で、職員は利用者から意見や要望などを聞いている。意見などを伝えにくい利用者には、表情や態度から思いを汲み取り、対応している。家族の来訪時には、職員から声をかけ、意見や要望などを聞くようにしている。事業所内には意見箱があり、利用者や家族から意見を伝えることもできる。職員からは、年2回管理者が実施する個別面接のほか、フロア会議等でも意見を伝えることができる。また、管理者は日々職員とのコミュニケーションを大切にしていることもあり、職員等から出された意見や提案は内容によってはフロア会議の中でも検討し、職員と一緒により良いサービス提供にも努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議に参加している家族からは意見を聞けたり意見箱を職員から見えない場所に設置している。面会時等家族とコミュニケーションを持ち、話を伺っている。		○		
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時には、公的窓口の情報案内を行っている。しかしそれ以外は、情報提供できていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	利用者の状況や現場の状況を把握できている。業務中に、法人幹部が来て職員の意見を聞く機会あり。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	各職員と意見交換を実施し、職員とのコミュニケーションを大切にしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員会やフロア会議で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の結果と目標達成計画の内容は、運営推進会議の中で報告しているが、取り組み状況の確認などモニター機能までには至っていない。今後は、運営推進会議に参加していない家族にも外部評価結果などが報告できるよう、全ての家族に会議録を送付したり、事業所便り等を活用して、評価内容を報告したりすることを望みたい。また、運営推進会議の参加メンバーに呼びかけ、取り組み状況などのモニター協力への取り組みなども検討することを期待したい。
		b	評価を通じて事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通じて事業所の課題を明確にしたり、職員会で意識統一を図ったり、今後の取組みに活かしている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部評価の結果から、これから取り組むべき内容を確認し合い、目標達成計画を作成している。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族には手紙で報告している。運営推進会議メンバーには書面で見て頂き、結果・目標達成計画を報告。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員会や運営推進会議で、目標達成計画の成果を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	様々な災害の発生を想定したマニュアルを作成している。地震・土砂災害など、災害の発生を想定して訓練を実施している。				年2回併設の保育所と連携して、地震や水害等を想定した避難訓練を実施している。訓練には消防署に協力してもらうほか、運営推進会議のメンバーにも参加協力を得ることができている。大規模災害の発生時には、実際に近隣にある系列の福祉施設に避難するなどの協力体制が確保できている。また、警察署の協力を得て、不審者の侵入などの防犯訓練も実施している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間・日中と想定して、土砂災害・火災・地震等災害の避難訓練を年間計画を立てて実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や屋外の避難経路の点検を行っている。また備品の確認は、災害避難訓練時には確認を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署職員、地域防災関係者に立ち会って頂きアドバイスを頂いたり、相談したりと話し合う機会を持っている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、近隣福祉施設の協力を得て屋外避難訓練を実施したり、1階の保育園と連携を組んで合同避難訓練を実施していた。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、法人で活動している認知症の方を地域で支える会「みかんの会」を結成しており、開催時には、事業所スタッフも協力参加している。				現在のコロナ禍において、外出制限や面会制限等を設けているため相談支援の機会は減っているが、事業所として年数件の電話相談などを受けて対応している。以前は系列病院のイベントに参加して認知症などの相談支援を実施したり、市行政と連携を密にし、認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして、参加協力をすることができていた。また、法人・事業所として、認知症の方を地域で支える「みかんの会」の結成や活動にも協力できている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、地域のイベントに参加し地域の方との相談や交流を図っている。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていない、以前は、地域行事等交流する活動はあった。また音楽療法開催時は関連事業所利用者も参加し交流の場となっていた。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていないが、介護職に興味ある高校生のインターンシップ受け入れは実施していた。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為実施が出来ていない。以前は市主催の認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして協力する事で、市との連携を密にしている。			○	